

国際教育研究拠点における農林水産分野の研究に関する要望書

令和3年12月10日

復興大臣
西銘恒三郎 殿

復興農学会¹⁾
会長 生源寺眞一

現在国際教育研究拠点について議論されているところ²⁾ではありますが、農林水産分野の研究に関しては、一般的な研究テーマのみならず、下記のような福島県特有の課題を解決する研究テーマを加えることを要望します。

1. 原発事故で傷ついた農林水産業を再生する視点で地元に着目しながら世界の農業問題に貢献できるような研究。
 - ・地域バイオマスと土着微生物を使って堆肥をつくり除染後の土壌肥沃度を向上させるための研究
 - ・通信インフラを整備しつつ中山間地域で使える小規模スマート農業の研究、など
2. 原発事故で失われた農村コミュニティを再生する社会科学的視点を取り入れて都市と農村の格差を和らげるような研究
 - ・伝統的な生活・食文化を守りながら小規模家族農業でデジタル田園都市・農村を実現するための研究、など
3. 福島県内にある既存の研究機関（大学・農業試験場等）と国立研究開発法人・国立大学法人が連携して行う研究
 - ・福島県の地理・気候風土を活かして総合的に進める共同研究、など

（参考）

1) 復興農学会

国内・外における自然災害・原子力災害等からの復旧・復興から得た農学・農業（農林水産業等）分野における知見・技術を、広く国内・外に発信していく学術的な非営利組織として2020年6月に設立されました。（<http://fukkou-nougaku.com/>）

2) 復興推進委員会（第38回）[令和3年11月18日] 資料1-1, p.7

<https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat7/sub-cat7-2/20211111115715.html>

農林水産分野の研究テーマのイメージ

○ 福島県の浜通り地域を舞台に、福島の農業関係者だけでなく、最先端の技術をもつ異分野の研究機関や大学、ベンチャー企業等が参集、活用する環境において、福島の産業振興に向け、最先端農林水産業ロボット技術を活用した農業や新機能素材、漢方薬原料等の生産・供給などに資する実証研究を促進し、実用化を後押し。

広大で多様な福島の地の利を活用
課題先進地である福島浜通り地域だからこそ、新拠点に分野横断的な知の融合・集積がなされる特色を生かし、従来の研究機関では対応しがたい大胆なチャレンジを可能とする研究環境を活用。

研究機関

**例①：ICT技術等を核とした
サステイナブル農林水産業の構築**
高度な自動運転技術など
世界トップレベルの技術を活用

**例②：国産循環資源を起点とした
サーキュエコノミーの構築**
高度酵素処理、ナノ技術など
世界トップレベルの技術を活用

県、
市町村

【将来的なイメージ】
無人運転やゼロエミッション技術など
最先端農林水産業ロボット技術を活用した
実証研究を展開

【将来的なイメージ】
新機能素材、漢方薬原料等
生産・供給システムの実証研究を展開

農林漁業者

無人でのほ場間移動
農機の遠隔監視室での運用
大型電動トラクタ
電子操業日誌
ICTを活用した
漁業者支援システム

バイオマス資源作物の例
薬用作物の例
新機能素材
漢方薬等

世界に誇れる農林水産地への変貌

ベンチャー
企業等

大学

海外機関